

2022年度事業計画書

1 2021年度の活動概要と見えてきた課題認識

(1) 地域活動の担い手の基盤強化

ア 活動概要

<相談対応>

- ・オンラインを活用し、コロナ下においても相談対応を継続した。また、現場訪問による相談も積極的に実施し、年130回の相談に対応した(2月1日現在)。特に関係機関とのコーディネートなど、相談内容の実現に向けた伴走支援を重視し、多様な主体による事業の実施につなげた。

<講座>

- ・50名規模の対面での講演会企画「私が動く、地域が変わる～今見つめ直す市民活動の価値と未来」(講師:山岡義典法政大学名誉教授)を開催。市内の活動団体が一堂に会する場となった。86%が満足と回答し「活動を俯瞰して捉えることができた」という声があった。
- ・オンラインを積極的に活用し、「ファンドレイジング(資金獲得)講座」「ファシリテーション」、「SDGs」、「広報」、「SNS」等ニーズに即した講座を25講座、他団体から受託した5講座を実施した。
- ・「まちだづくりカレッジ」「ファシリテーション講座」開催後にフォローアップ講座である「まちだづくりカレッジ同窓会」「ファシリテーション講座実践編」を通して受講者のコミュニティづくりを実施した。

イ 課題

- ・「広報」、「資金獲得」についての相談が多く、解決のために事業の方向性の整理等をしていくと、当初の相談内容と異なる課題が浮かび上がることが多い。
- ・社会状況の変化が大きく、前例のない取り組みが必要となっている。

(2) 地域活動支援の拡充

ア 活動概要

<資源のマッチング>

- ・助成金説明会の開催、助成金申請支援、助成金情報の発信を積極的に実施した。
- ・町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ!」では活動場所やイベント実施等のマッチングを実施した。
- ・民間企業の遊休スペースを活用して実施する事業の立ち上げ支援と継続的な運営支援を実施した。
- ・学生おうえん隊を拡充し、8団体で20名の大学生が活動をした。学生の参画により団体の新たな事業実施や情報発信が実現した。

イ 課題

- ・助成金情報などオンラインでの情報入手は可能となったが、情報過多やデジタルデバイドなどにより、本当に必要な情報を入手することが難しいという声が多い。
- ・地域活動を支える資源(人、物、場所、資金)と活動したい個人・団体をつなぐ仕組みが確立されていない。

(3) 連携・協働・共創の推進

ア 活動概要

<連携・協働・共創事業の推進>

- ・町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」オープニングイベントとして、新たに複数団体が協働して「オトパ（お父さん・お母さん、ともにおかえりなさいパーティ）in まちだ」及び「まちカフェ！マルシェ」を開催。「オトパ」8団体、「マルシェ」15団体による協働開催が実現した。
- ・参加団体実施報告アンケートでは、38%（昨年度20%）の団体が「協働による取り組みが生まれた」と回答し、昨年度より協働事業に取り組む団体が大幅に増加した。
- ・その他、「まちカフェ！」以外にも多様な主体が参加する事業（5事業）の運営支援を実施した。

イ 課題

- ・連携・協働・共創の取り組みは、スタート段階において、メンバー間の信頼関係構築、対話の促進、会議の進行など事務局（コーディネーション、ファシリテーション、プロジェクトマネジメント）が機能していることが特に重要である。その機能を構成団体が担うキャパシティが十分でないことが多いため、想いはあっても事業が立ち上がらない。

2 活動方針

2021年度事業を継続・発展する形で実施。新規事業である下線部の事業については、特に重点的に取り組む。

- (1) 相談をきっかけに団体の事業の方向性の整理、関係者・関係機関とのコーディネートなど事業実現に向けた伴走支援を実施する。
- (2) サポートオフィスの事務所だけでなくオンライン/市内各地における学び合い・対話型の講座等を実施し、サポートオフィスによる直接的な支援のみならず相互支援の関係性を市内で構築する。
- (3) NPO法人をはじめとする市内の市民セクターの形成を支援する。
- (4) 地域活動を支える情報のハブとして、サポートオフィス通信やホームページ、SNS等で地域活動に有用な情報を読みやすく提供する。
- (5) 地域活動を支える資源（人、物、場所、資金）を必要な個人・団体つなぐ仕組みを構築する。
- (6) 共創・協働を推進するため、集団による問題解決、アイデア創造等を支援し促進する担い手であるファシリテーターを地域に増やす。
- (7) 連携・協働・共創事業の実現に向けたコーディネート・事務局支援を体系化して実施する。

3 事業計画

(1) コーディネート事業

相談・伴走支援

- ・顕在化していないニーズや事業の方向性の整理を支援し、関係者や関係機関とのコーディネートなどを行うことで、事業の実現につながる継続した伴走支援を実施する。また、「地区別懇談会」、「まちだをつなげる30人」、「まちだ〇ごと大作戦」などから生まれたプロジェクトの実現・継続に向けた伴走支援も実施する。

【実施回数（目標）：相談年間100件以上】

イ 講座・対話の場の開催

- ・オンラインならびに「市民協働おうえんルーム」や市内の各会場での対話型の講座等を開催する。地域活動の担い手の学び合いによる関係構築を重視するため、講師は、市内で活動する個人・団体に依頼する（例：法人設立経験共有会、プロジェクトブレスト会議、広報・SNSなんでも相談会など）。

【実施回数（目標）：年間10件以上】

- ・設立以来実施している連続講座「まちだづくりカレッジ」は、過去の受講者のヒアリングを実施し、内容をよりニーズに即したものに改訂して実施する。

【実施回数（目標）：年1回】

ウ シンポジウム「まちだづくりサロン特別編」

- ・NPO法人のネットワーク形成及び市民活動の裾野を広げることを目的に、社会状況や市民活動について広い視点でとらえることができるシンポジウム「まちだづくりサロン特別編」を開催する。

【実施回数（目標）：年1回】

エ 行政と市民等の協働の推進

- ・行政各課の協働ニーズを把握し、地域活動団体等とのコーディネートを実施する。

【実施回数（目標）：1件】

(2) 情報収集及び発信事業

ア 広報誌の作成

- サポートオフィスの事業、市内で活動する団体の紹介等を掲載する他、サポートオフィスの知見等を取りまとめて発信する（例：広報、若者の参加、助成金等）。

【実施回数（目標）：発行年10回以上／各回1,500部】

イ ホームページ運営及びSNS・メルマガ等を活用した情報発信

- ・ホームページ上に市内外の活動事例、知見、各種情報、講座・相談内容の記録など長期的に価値のあるストック型の記事を掲載し、ホームページを充実させる。
- ・クロズド／オープンコミュニティの運用などSNSの双方向性を活かした情報発信を充実させる。

(3) 組織に対する基盤強化事業

ア 町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」

- ・町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」を各団体が新たな取り組みを試験的に実施する場として位置づけ、必要な資源の提供、団体間の連携・協働の促進のための事業の開催や個別のマッチングを実施する。この取り組みをもって協働・共創事業への発展を目指す。

(4) 人材育成事業

ア 「まちカフェ！」おうえん隊（「まちカフェ！」ボランティア）

- ・「まちカフェ！」全体企画、参加団体支援を行うボランティアとして「おうえん隊」を広く募集し、地域活動への参加を促進する。なお、今年度は「学生おうえん隊」に

加えて、新たに 1 日単位などの短期間で気軽に参加しやすいボランティアプログラムとして「ワンデイおうえん隊（仮）」を実施する。

(5) 地域活動に関する調査研究事業

ア 支援体制の強化に向けた調査事業

- ・ 行政や市内の大学、企業に対して、協働事業の運営支援のニーズをヒアリングする。 【実施回数（目標）：3回】
- ・ ボランティアの受け入れ、寄付募集等、他団体の参考となる活動を行っている市内のNPO法人及び市民活動団体に対して、ヒアリング調査を実施し、分析結果を取りまとめて発信する。 【実施回数（目標）：10団体】
- ・ 市外中間支援組織の支援状況の把握や他市との連携を強化するため、ヒアリングや研修・会議への参加を行う。 【実施回数（目標）：5回以上】

(6) 資金調達事業

ア 地域活動を支える資源の開拓と仕組みの構築

- ・ 地域活動を支える資源（資金、場所等）を開拓し、市内活動団体に提供する仕組みを構築する。 【実施目標：1件】

(7) その他事業

ア 共創・協働事業の立ち上げ支援

- ・ 共創・協働を推進するため、問題解決、アイデア創造等を支援し促進する担い手であるファシリテーター育成に向けた実践的な勉強会を開催する。 【実施回数（目標）：実践型の勉強会 3回開催】
- ・ SDGs の視点をいれた多様なセクターによる対話の場づくりを開催する。 【実施回数（目標）：2回】
- ・ 共創・協働事業立ち上げ時のコーディネート・バックオフィス支援を実施する。

イ 法人の運営体制の強化

- ・ 設立時に制定した規定類の見直しを進める。
- ・ 設立4年目の役員改選を目途に役員体制の強化をはかるための検討を進める。